

開 講 単 位 数 一 覧								
学 年	1年次		2年次		3年次		4年次	
学 期	1Q・2Q	3Q・4Q	1Q・2Q	3Q・4Q	1Q・2Q	3Q・4Q	1Q・2Q	3Q・4Q
必 修	11	8	9	18	9	9	0	8
選 択	2	7	4	7	11	14	4	0
計	13	15	13	25	20	23	4	8
合 計	28		38		43		12	

(備 考)

- 注 1. 卒業に必要な専門教育の単位数は、必修64単位、選択24単位である。ただし、選択については下記注2～5を満足すること。
- 注 2. 工学基礎科目の基礎化学、生命科学及び専門科目の環境地質学の3科目のうち、2単位以上を修得すること。
- 注 3. 工学基礎科目の経営管理、産業経済学のうち、2単位以上を修得すること。
- 注 4. 専門科目の選択科目の構造デザイン、建築・アーバンデザイン及び機械デザインの3科目のうち、1単位以上を修得すること。
- 注 5. 専門科目の選択科目の中から20単位以上を修得すること。なお、選択科目の単位(卒業要件)として6単位まで他コースの開講科目で置き換えることができる。
- 注 6. 毎週授業時間数欄に*を付した科目は、集中講義として開講される。
- 注 7. 学外実習及び見学は、学外実習と見学の両方を修得して成立する。
- 注 8. 入学後に、他大学、放送大学、他学部で修得した単位については修得認定をするが、卒業要件としては単位認定をしない。ただし、他学部との副専攻プログラムで修得した単位は8単位まで、環境科学部で開講される地域計画論及び環境計画学Iで修得した単位は4単位までの計12単位までを選択科目の単位(卒業要件)として算入することができるが、他コース科目と合わせて12単位を超えないものとする。
- 注 9. 教員免許に係る科目欄の●印は教員免許取得上の必修科目を、○印は教員免許取得上の選択科目を表す。
- 注 10. 資格欄の「一級」は一級建築士、「二級・木造」は二級建築士及び木造建築士を表す。
- ① 一級建築士受験資格取得希望者は、資格欄に示す◎印の全科目を履修すること。また、●印の中から7単位以上、▲印から4単位以上、★印から3単位以上、◆印から2単位以上、■印から2単位以上履修すること。
- ② 一級建築士の免許登録にあたっては、取得した単位数によって必要な実務経験の期間が異なる。総単位数は①の履修条件を満足し、他に、※印の「CAD演習」、社会環境デザイン工学コースで開講される授業科目「建設マネジメント」(但し、■印に分類される)、「都市・交通計画」、「測量学」、「環境計量学」、「景観デザイン」、又は環境科学部で開講される「地域計画論」、「環境計画学I」(但し、※印に分類される)の単位数も含めて、60単位以上であれば実務経験2年、50単位以上であれば実務経験3年で、40単位以上であれば実務経験4年で建築士の免許が登録できる。
- ③ 二級建築士及び木造建築士受験資格取得希望者は、資格欄に示す◎印の科目を履修すること。また、○印の中から5単位以上、△印から7単位以上、☆印から6単位以上、□

印から1単位以上履修すること。

- ④ 二級建築士及び木造建築士の免許登録にあたっては、取得した単位数によって必要な実務経験の期間が異なる。総単位数は③の履修条件を満足し、他に、※印の「CAD 演習」、社会環境デザイン工学コースで開講される授業科目「建設マネジメント」（但し、□印に分類される）、「都市・交通計画」、「測量学」、「環境計量学」、「景観デザイン」又は環境科学部で開講される「地域計画論」、「環境計画学Ⅰ」（但し、※印に分類される）、の単位数も含めて、40単位以上であれば実務経験0年、30単位以上であれば実務経験1年、20単位以上であれば実務経験2年で建築士の免許が登録できる。